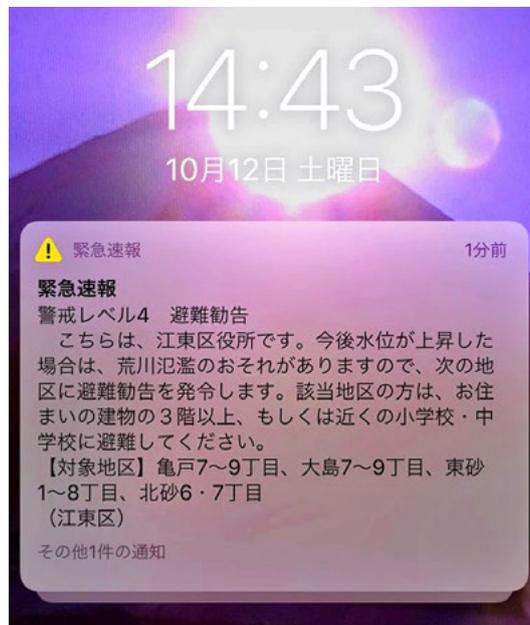


NPO法人 自立生活センター STEPえどがわ 会報

STEPっ子パラダイス all for ワ、ダフォー!!

えぬぴーおーほうじん
じりつせいかつせんたー
すてっぷえどがわ
かいほう
すてっこぱらだいす
おーるふおあわんだふおー

ねん がつごう
2020年1月号



10月12日に台風19号が関東地方を中心に縦断していきました。我が家では前日にベランダ側の窓ガラスに養生テープを貼ったり、水や食料など確保するなど思いつくことは準備を行い備えることに。そして当日は14時ぐらいから雨風が急に強くなりはじめテレビやネットで台風情報を調べていたその時、けたたましい音が携帯から聞こえてみると【上の写真】避難勧告・・・

いやいやいやこんな時に避難するほうが危険でしょ！！って思わず突っ込みたくなりましたが、幸い我が家の住む所は含まれず、また川も氾濫せず。とはいえ対象地域の方は生きた心地がしなかったと思いますが、改めて避難の仕方を考えさせられる一日となりました。



目次
もくじ



| | |
|--|----|
| しんねん あいさつ 新年のご挨拶 | 2 |
| えいが かんせい 映画「インディペンデントリビング」完成! | 3 |
| てつどうえき しやりょう だんさ すきま 鉄道駅 ホームと車両の段差・隙間について | 4 |
| す て こしさつだん いん いけが みゆたか STEっ子視察団 in アメリカ 井家上 裕 | 6 |
| す て こしさつだん いん たなかすずね STEっ子視察団 in アメリカ 田中鈴音 | 7 |
| なとうーき い みなみ ひさおせんせい わたし いん Natsukiが行く! 南さんと久夫先生と私 in ジュネーブ | 9 |
| うちのコーディネーター | 11 |
| ぼくって、にほんじん って、いったい何なんだろう | 15 |
| ほうこく ピアカン報告 | 17 |
| すずね しゆわ こーだ そーだ 鈴音の手話コラム CODA、SODAについて | 19 |
| まも こうどう いのちを守る行動を | 20 |
| ねんど しょうがいとうじしゃ ようせいけんしゅう いん べつぷ 2019年度バリアフリー障害当事者リーダー養成研修 in 別府 | 24 |
| すてつぷ STEP えどがわクリスマスパーティー 2019 | 27 |
| おとな しゃかいかけんがく じゃ る せいびこうじょうけんがく 大人になったの社会科見学 ~JAL整備工場見学~ | 28 |
| かいいんぼしゅう 会員募集 | 30 |



新年のご挨拶



えぬぴーおーほうじん じりつせいかつ すてっぶ
NPO法人 自立生活センターSTEP えどがわ
りじちよう いまむら のぼる
理事長 今村 登

新年、あけましておめでとうございます。

昨年(さくねん)はダスキン愛(あい)の輪(わ)基金(ききん)のミドル研修(けんしゅう)の助成(じょせい)を受け(うけ)、STEP えどがわチームで訪米(ほうべい)するなど、申請(しんせい)した助成事業(じょせいじぎょう)の多く(おおく)が採用(さいよう)され、周囲(しゅうい)から「STEP えどがわは、飛ぶ鳥(と)を落とす勢(いきお)いだね!」というような様々(さまざま)な称賛(しょうさん)をいただくなど、充実(じゅうじつ)した



年(とし)ではありました。そして暮れ(く)の迫(せま)った11月(がつ)に、飛ぶ鳥(と)どころか、勢(いきお)い余(あま)ってバックするべき車(くるま)をも前進(ぜんしん)させ、事務所(じむしょ)に引き入れ(ひきい)る(突っ込まれる)という最強(さいきょう)の求心力(きゅうしんりょく)を発揮(はつき)してしまいました。いわゆる高齡(こうれい)ドライバーによるアクセルとブレーキの踏み間違い(ふみまちが)事故(じこ)です。幸(さいわ)い誰も負傷者(ふしやうしゃ)は出(で)ず、保険(ほけん)でガラスが新調(しんちよう)されることになりました(それはそれでラッキーかも)。

この会報(かいほう)が発行(はっこう)される頃(ころ)、まだ事務所(じむしょ)のガラスは割れたまま(わ)だと思(おも)いますが、2020年(ねん)は国連(こくれん)において障害者権利条約(しょうがいしゃけんりじょうやく)の日本(にほん)審査(しんさ)が行(おこな)われ、是正(ぜせい)勧告(かんこく)である総括所見(そうかつしよけん)が出(だ)されることから、日本(にほん)の障害者施策(しょうがいしゃしやく)の大きな転換点(てんかんとん)となりそうな(なるようにしな)きゃ)年(とし)なので、障害者運動(しょうがいしやうんどう)が割れないよう念(ねん)を込(こ)めてガラスをしっかりと直(なお)して、新年(しんねん)に臨(ぞ)みたいと思(おも)います。

2019年(ねん)が調子(ちょうし)良かったからとい(い)って、ラッキーラッキーと調子(ちょうし)に乗(の)って、運営(うんえい)のアクセルとブレーキを踏み間違い(ふみまちが)ないように、精進(しょうじん)したいと思(おも)います。また、高齡(こうれい)で踏み間違(ふみまちが)える前(まえ)に、そろそろ免許(めんきよ)の返上(へんじやう) (理事長交代(りじちようこうたい))の準備(じゆんび)もしな(す)きゃです(ね)。 (鈴音(すずね)、後(あと)は頼(たの)んだ!)

ということで、本年(ほんねん)も何卒(なにとぞ)よろしくお願(ねが)い申(もう)し上げ(あ)げます。





いまむら のぼる
今村 登

ぶたい しょうがいとうじしゃ うんえい じりつせいかつ
舞台は障害当事者が運営する自立生活センター。そこは“生きづらさ”を抱えた人が“自分らしさ”を取り戻す場所。(映画公式HPより: <https://bunbunfilms.com/filmil/>)

2016年から私、今村登の自薦ヘルパーとしてSTEPえどがわの介助者登録している田中悠輝君は、熊本地震の被災地訪問から始まり、アメリカのユース達を招いた浜松でのJIL総会、アメリカ、ネパール、コスタリカと、私の国内外の出張時専門ヘルパーを務めた。彼はヘルパーの他に、原発関連のドキュメンタリー映画監督として著名な鎌仲ひとみ監督の映画作成会社「ぶんぶんフィルムズ」のスタッフでもあり、カメラ小僧の一面も持っていた。私の出張先では、障害者のJL運動(自立生活運動)をしている国内外のいろんな障害当事者に出会う機会が多いこともあり、とりあえず記録しておいて欲しいと頼んだことで、彼が映像を撮り始めたのが、この映画作成のきっかけとなったのでした。なのにこの映画に私も海外の様子も一切登場しないという、Fカップ旧…いやF難度級のオチがつくのはご愛嬌。大阪で活動している3つの自立生活センターでの、自立支援の模様を追いかけたドキュメンタリー映画として完成し、2020年1月11日から全国に先駆けて大阪の



「第七藝術劇場(通称:七藝)」での劇場公開がスタートします。東京では3月中旬から渋谷にあるミニシアター「ユーロスペース」で公開が予定されており、その後も全国各地のミニシアターでの上映が決まりつつあります。

ひと せいさんせい こうりつせい ひょうか かちかん まんえん
人を生産性、効率性で評価する価値観が蔓延した社会が作った歪みを直していく力が、障害者のJL運動は持っているのではないか。そんな気がする映画が誕生しました。日本語字幕、音声ガイドと言った情報保障もバッチリ! 2020年はオリパラ・イヤーですが、オリパラ以上の盛り上がり、映画「インディペンデント・リビング」で起こしましょう。



くどう としこ
 工藤 登志子

2019年8月末、国土交通省より「鉄道駅におけるプラットホームと車両乗降口の段差・隙間に関する検討会」のとりまとめが公表されました。このとりまとめでは段差3cm×隙間7cmを当面の目標とし、将来的には段差2cm×隙間5cmを理想の数値として出されました。

○なぜ、ホームと車両間の段差・隙間解消が必要なのか？

普段車いすで移動をしていない人々にとってはホームと車両の間の段差・隙間に着目する機会はありません。しかし車いすユーザーにとっては、この段差・隙間問題が鉄道利用時の便利さ、快適さ、安全さに大きく関わってきます。段差・隙間が大きいと前輪がホームと車両の間に落ちてしまい大変危険です。そのため乗降時は渡し板を置いてもらうなどの介助が必要になりますが、渡し板を駅員にお願いすると、人員の手配や



とえいおおえどせん
 都営大江戸線
 えきいんかいじよな じょうしゃかのう
 駅員介助無しで乗車可能

降車時も単独で降りられる。
 急なトイレにも安心(∧_∧)



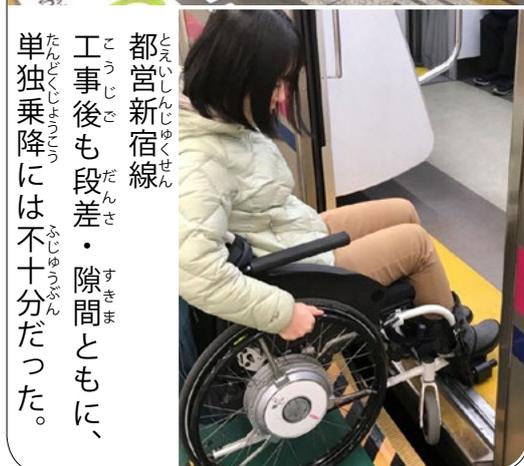
降車駅への連絡などで通常よりも多くの時間を要します。利用客の多い駅だと30分以上待たされることも珍

しくなく、散々待たされた挙句、駅同士の連絡ミスなどで降りたい駅に駅員がいない！ということもたまに起こります。乗っている途中で急遽予定が変わった場合も途中で下車ができません。さらに駅員が常駐していない無人駅では数日前から連絡しておかないと対応してもらえないといった事例もあります。もし、段差・隙間が解消されていて車いすユーザーが自力で乗降できるようになれば、これらの問題を解決することができます。

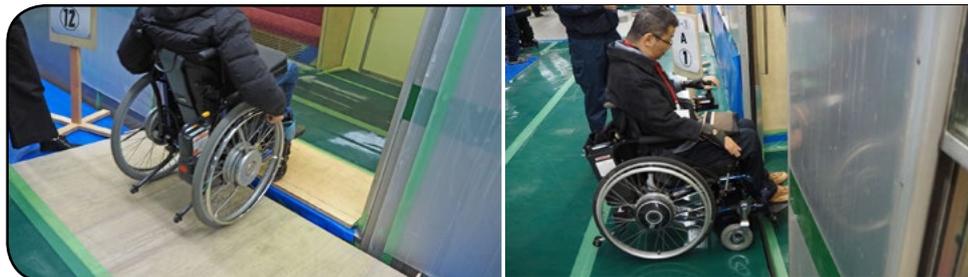
○なぜ、段差・隙間解消の目安値が必要なのか？

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、都心部の路線では段差・隙間の解消工事が進められています。STEPえどがわの最寄り駅がある都営新宿線は2019年、全駅全扉でのホームドア設置と床のかさ上げ工事が完了しました。・・・が、しかし！！工事完了後のホームを見ると、所々で段差・隙間が大きく残っていてとても単独では自力乗降できない箇所が残ってしまいました。なぜこんなことが起きたかという、施工時に目安値を決めることなく全箇所一律にかさ上げ工事を行ったためです。駅によってホームがカーブしていたり形状が異なるため、一律に行うとどうしても凸凹が残る箇所が出てきてしまいます。なので、全駅全扉のどこからでも単独自力乗降できるような目安値が必要なのです。

2019年初旬に行われた実証実験では様々なタイプの車いすユーザーを集め、実際に駅と車両を使って数パターンの段差・隙間を試しました。その結果、段差2cm×隙間5cmだと全ての被験者が自力で乗降でき、段差3cm×隙間7cmでは90%の被験者ができました。今後、鉄道事業者はこの目安値を基準に整備を進めていく事になりますが、きちんと守られているか当事者たちのチェックが必要になってきます。出来れば計画段階から当事者の意見を取り入れてもらえるよう、日ごろから鉄道事業者と話し合いの場を持てると良いなと思いま



都営新宿線
 工事後も段差・隙間ともに、
 単独乗降には不十分だった。



実際の車両やホーム
 を使っての実証実験。
 車椅子タイプ、段差、
 隙間の様々な組合せを
 行った。

すて こし さつ だん けん しゅう ほう こく
STEっ子視察団 アメリカ研修報告

だれ はいじよ しやかい だれ とうじしゃ
「誰も排除されないインクルーシブな社会」では「誰もが当事者」

いけがみ ゆたか
井家上 裕

こんかい わたし けんしゅう しょうがいとうじしゃ にん
今回、私はアメリカ研修で障害当事者3人のサ
ポートという立場で参加致しました。日本でも多く
の障害当事者が社会を変えて行こう！と強い想いを
持って活動しています。ではヘルパーやサポートす
る側の意識はどうあるべきか？そんな想いを抱えつ
つ、アメリカに行ってみりました。



とく いんしやうてき できごと しょうかい
特に印象的だった出来事をご紹介します。シカゴ
のアクセスリビングでLGBTQの障害当事者にヘル
パー派遣をする場合、「派遣されるヘルパーの性別に希望があるか聞いている」と
いう話がありました。そこで私が1つこんな質問をしました。

にほん しーあいえる どうせいはいじよ かんが かつ えるじーびーていーきゅー ばあい
「日本のCILには同性介助の考え方がある。ヘルパーがLGBTQの場合もありヘル
パー派遣のコーディネートを悩む時があるのだが・・・」

わたし しつもん
私が質問するとすぐにこんな答えが返ってきました。

「良い質問ですね。ヘルパーの希望も聞くべきだと今、気付きました。すぐ変えます。」
正直、私は驚きました。初めて会う違う国の一個人の言葉ですぐ決断し動き出せる。
仲間の為に出来る対応はどんな事でもするという姿勢を感じ取りました。それと同時に
とにかくアメリカでは仲間の定義がとても広い印象を持ちました。

「差別や偏見を持たれた」「支援を受けたくても受けられない」「社会を変えたいと
思っている」同じ想いを持っていれば皆仲間だよ、と当たり前のように考えて活動して
いました。そこには障害種別・人種・性別・障害の有無など壁はありませんでした。

そして「仲間が悩んでいたら自分に何が出来るか考えるのは当たり前でしょ」とい
う姿勢を障害当事者だけでなく関わる人みんなが持っていました。インクルーシブな
社会では誰もが当事者で、誰もが仲間なんだと強く感じる事ができました。

普段から今回参加した障害当事者3人の活動を見てきている自分としては、今回の
研修で学んだ事をしっかりと日本の障害者運動に活かしてくれるだろうと確信しており
ます。そして私自身も同じ志を持つ仲間として、誰も排除されないインクルーシブ
な社会を作っていく為、頑張っていきたいと思っております。

すて こし さつ だん けん しゅう ほう こく
あいのわ STEっ子視察団 アメリカ研修報告
タスキンの輪基金

で ふ ぴー ぶる きゃん どう えにいしんぐ いくせぶと ひあー
Deaf people can do anything except hear

たなか すすね
田中 鈴音



ぜんごう つた あくせすりびんぐ しーでいーあーる
前号お伝えした Accessliving、C D R
けんしゅう かんそう つづ こんごう わたし つよ
での研修の感想に続き、今号は私が強く
きぼう だいがく
希望していたギャローデット大学とロ
こうかだいがく けんがく とど
チェスター工科大学の見学についてお届け
します。

だいがく
まずギャローデット大学は、ワシントン
D.C.にある聴覚障害者のための大学で
す。大学内でのコミュニケーション手段
だいがく
はアメリカ手話と書記英語で、アメリカ手話は、学生・スタッフ・教職員・学長など
すべての人が習得しています。手話を知らない新入生や教職員などは新学期に備えて
手話講習会に出席し、手話を習得する必要があるなどアメリカ手話を使えることが
大前提となります。コミュニケーションに不自由することなく学べる環境を作るため
にはとても重要なことです。

わたくし すて こし さつ だん だいがく さんか
私たちSTEっ子視察団は、ギャローデット大学ツアーに参加しました。そこでは
がくせい れきし たてもの せつめい まじ あんない
学生ボランティアガイドが歴史や建物の説明も交えて案内してくれました。その日は
なつやす ま なか ざんねん がくせい だいがく
夏休み真ただ中で残念ながら学生はほとんどいませんでした・・・が、大学内を
じっくりと見ることができました。学内にもたくさんの工夫がされていました。吹き
ぬ たてもの おお しゅう かいわ かい
抜けの建物が多く、どこにいても手話で会話ができるようになっており、1階にいて
かい ひと とうめい ば
も2階にいる人とコミュニケーションがとれます。エレベーターも透明のガラス張り
になっていてエレベーターの中からも手話で会話ができます。もちろん、車いすの人の
ためのアクセスもほぼ完ぺきで炎天下の中ではありません
ましたが、みんなでまわられました。

こうかだいがく しゅう だいがく
ロチェスター工科大学はニューヨーク州にあり、大学の
しきちない こくりつろうこうかだいがく へいせつ
キャンパスの敷地内に国立聾工科大学が併設されて
いて、これにより、ロチェスター工科大学では数多く



のろう^{がくせい}学生が他の^た学生^{がくせい}とともに^{まな}学んでいます。手話^{しゅわ}による^{ほんやく}翻訳やノートテイクなどが充実^{じゅうじつ}していて、学習^{がくしゅう}しやすいように^{くふう}工夫^{くふう}されていました。つくばに^{にほん}日本で^{ゆいいつ}唯一^{ゆいいつ}の聴覚^{ちやうかくしやうがいしや}障害^{ちやうかくしやうがいしや}者のための^{だいがく}大学^{だいがく}がありますが、その^{しまいこう}姉妹校^{しまいこう}でもある^{だいがく}そうです。

私が^{わたし}特に^{とく}印象^{いんしやう}に残^{のこ}っている^{はなし}お話を^{だいがく}1つ^{だいがく}。ギャローデット^{とうじしやうんどう}大学^{とうじしやうんどう}での「デフ・プレジデント・ナウ」という^{やく}当事者^{いま}運動^{しや}のこと^{がくちやう}です。訳すと「今こそ^{しや}ろう者^{がくちやう}の学長^{がくちやう}を」という^い意味^みになります。これは、ろう者^{しや}のための^{だいがく}大学^{だいがく}である^{だいがく}ギャローデット^{だいがく}大学^{がくちやう}の学長^{がくちやう}を選出^{せんしゅつ}する^{さい}際に、手話^{しゅわ}に対して^{たい}見識^{けんしき}の薄^{うす}い^{ちやうしや}聴者^{がくちやう}が学長^{えら}に選ばれた^{がくせい}ことで^{がくせい}学生^{がくせい}たちが反抗^{はんこう}し、デモ^おを起^{できごと}こした^{ちやうかくしやうがい}出来事^{がくせい}です。そこには^{さまざま}聴覚^{ちやうかくしやうがい}障害^{がくせい}者の学生^{がくせい}だけではなく、^{さまざま}様々な^{さまざま}障害^{さまざま}種別^{しやうがい}の人^{ひと}、障害^{しやうがい}のない^{ひと}人も^{しじしや}支持者^{うんどう}となり^{さんか}運動^{ちやうかくしやうがいしや}に参加^{ちやうかくしやうがいしや}した^{ちやうかくしやうがいしや}そうです。聴覚^{ちやうかくしやうがいしや}障害^{ちやうかくしやうがいしや}者のための^{うんどう}運動^{ちやうかくしやうがいしや}に、聴覚^{ちやうかくしやうがいしや}障害^{ちやうかくしやうがいしや}以外^{ひと}の人も^ま巻き込^こんで^{うんどう}運動^{うんどう}を進^{すす}めて^いいって^いきた^いこと、今^{いま}私^{わたし}たちが^い直面^{ちやくめん}している^{かだい}課題^{かだい}の1つ^{ひと}でもある^ま「どう^まや^こったら^{うんどう}いろん^{うんどう}な^{うんどう}人^{うんどう}を^{うんどう}巻き^{うんどう}込^{うんどう}んで^{うんどう}運動^{うんどう}を^{うんどう}して^{うんどう}い^{うんどう}ける^{うんどう}か^{うんどう}」この^{うんどう}こと^{うんどう}と^{うんどう}重^{うんどう}なり^{うんどう}ました。ギャローデット^{うんどう}大学^{うんどう}にある^{うんどう}資料館^{うんどう}で^{うんどう}当時^{うんどう}の^{うんどう}デモ^{うんどう}の様子^{うんどう}の^{うんどう}写^{うんどう}真^{うんどう}を^{うんどう}見^{うんどう}ながら^{うんどう}その^{うんどう}こと^{うんどう}を^{うんどう}深^{うんどう}く^{うんどう}考^{うんどう}え^{うんどう}させ^{うんどう}られ^{うんどう}ました。

この^{うんどう}運動^{うんどう}により、ろう者^{しや}の学長^{がくちやう}が再^{さい}選出^{せんしゅつ}され^{えんぜつ}ました。その^{のこ}学長^{ゆうめい}が演説^{えんぜつ}で残^{のこ}した^{ゆうめい}有名^{ゆうめい}な^{ゆうめい}言葉^{ゆうめい}が「deaf people can do anything except hear.」(ろう者^{しや}は聞^きくこと^い以外^{ことば}は何^{なん}でも^{なん}できる^{なん})です。す^{なん}ごく^{なん}お気^{なん}に^{なん}入^{なん}りの^{なん}言葉^{なん}です。最^{さい}後^ごに^{さい}寄^{さい}った^{さい}ギャローデット^{さい}大学^{さい}の^{さい}近^{さい}く^{さい}の^{さい}スターバックス^{さい}は^{さい}店員^{てんいん}の^お多^おく^おが^お聴覚^{ちやうかくしやうがいしや}障害^{ぜんいん}者^{しゅわ}で^{きやく}全^{きやく}員^{きやく}が^{きやく}手話^{しゅわ}で^{きやく}お客^{きやく}さん^{きやく}と^{きやく}コ^{きやく}ミュ^{きやく}ニ^{きやく}ケ^{きやく}ー^{きやく}シ^{きやく}ョ^{きやく}ン^{きやく}が^{きやく}と^{きやく}れ^{きやく}ま^{きやく}す。私^{わたし}は^{しゅわ}ア^{しゅわ}メ^{しゅわ}リ^{しゅわ}カ^{しゅわ}手話^{しゅわ}が^{しゅわ}でき^{しゅわ}ま^{しゅわ}せ^{しゅわ}ん^{しゅわ}が、^{しゅわ}ジェ^{しゅわ}ス^{しゅわ}チャー^{しゅわ}や^{しゅわ}指^{しゅわ}差^{しゅわ}し^{しゅわ}を^{しゅわ}使^{しゅわ}っ^{しゅわ}て^{しゅわ}自^{しゅわ}分^{しゅわ}の^{しゅわ}希^{しゅわ}望^{しゅわ}す^{しゅわ}る^{しゅわ}飲^{しゅわ}み^{しゅわ}物^{しゅわ}を^{しゅわ}注^{しゅわ}文^{しゅわ}す^{しゅわ}る^{しゅわ}こ^{しゅわ}と^{しゅわ}が^{しゅわ}でき^{しゅわ}ま^{しゅわ}し^{しゅわ}た。S^すT^すE^すっ^す子^す視^す察^す団^すの^すメン^すバー^すも^す注^す文^すに^す挑^す戦^す。私^{わたし}と^{わたし}コ^{わたし}ミュ^{わたし}ニ^{わたし}ケ^{わたし}ー^{わたし}シ^{わたし}ョ^{わたし}ン^{わたし}を^{わたし}と^{わたし}る^{わたし}の^{わたし}に^{わたし}ジェ^{わたし}ス^{わたし}チャー^{わたし}を^{わたし}使^{わたし}う^{わたし}こ^{わたし}と^{わたし}に^{わたし}慣^{わたし}れ^{わたし}て^{わたし}い^{わたし}る^{わたし}の^{わたし}か、^{ぜんしん}全^{ぜんしん}身^{ぜんしん}を^{つか}使^{つか}っ^{つか}て^{つか}オ^{つか}ー^{つか}ダ^{つか}ー^{つか}を^{つか}し^{つか}て^{つか}い^{つか}ま^{つか}し^{つか}た(笑)さ^{わらい}すが!!^{にほん}日^{にほん}本^{にほん}にも^{にほん}ス^{にほん}タ^{にほん}ー^{にほん}バ^{にほん}ッ^{にほん}ク^{にほん}ス^{にほん}の^{しゅわ}手話^{しゅわ}ス^{しゅわ}ト^{しゅわ}ア^{しゅわ}が^{しゅわ}オ^{しゅわ}ー^{しゅわ}プ^{しゅわ}ン^{しゅわ}す^{しゅわ}ると^{しゅわ}い^{しゅわ}い^{しゅわ}な^{しゅわ}あ^{しゅわ}と^{しゅわ}願^{しゅわ}っ^{しゅわ}て^{しゅわ}い^{しゅわ}ま^{しゅわ}す。

シカゴ^{でいーしー}・ワシントン^{でいーしー}D.C.^{でいーしー}・ニュー^{でいーしー}ヨーク^{でいーしー}・ロ^{でいーしー}チェ^{でいーしー}スター^{でいーしー}を^{でいーしー}16^{でいーしー}日^{でいーしー}間^{でいーしー}で^{でいーしー}ま^{でいーしー}わ^{でいーしー}った^{でいーしー}海^{でいーしー}外^{でいーしー}研^{でいーしー}修^{でいーしー}は^{でいーしー}み^{でいーしー}な^{でいーしー}さん^{でいーしー}の^{でいーしー}心^{でいーしー}添^{でいーしー}え^{でいーしー}の^{でいーしー}お^{でいーしー}か^{でいーしー}げ^{でいーしー}で^{でいーしー}充^{でいーしー}実^{でいーしー}した^{でいーしー}研^{でいーしー}修^{でいーしー}と^{でいーしー}な^{でいーしー}り^{でいーしー}S^{でいーしー}T^{でいーしー}E^{でいーしー}っ^{でいーしー}子^{でいーしー}視^{でいーしー}察^{でいーしー}団^{でいーしー}全^{でいーしー}員^{でいーしー}無^{でいーしー}事^{でいーしー}に^{でいーしー}日^{でいーしー}本^{でいーしー}に^{でいーしー}戻^{でいーしー}っ^{でいーしー}て^{でいーしー}く^{でいーしー}る^{でいーしー}こ^{でいーしー}と^{でいーしー}が^{でいーしー}でき^{でいーしー}ま^{でいーしー}し^{でいーしー}た。私^{わたし}た^{わたし}ち^{わたし}は^{わたし}こ^{わたし}こ^{わたし}ら^{わたし}が^{わたし}ス^{わたし}タ^{わたし}ー^{わたし}。目^{もく}標^{ひやう}を^{じつげん}実^{じつげん}現^{じつげん}で^すき^する^すよ^すう^すに、S^すT^すE^すP^すえ^すど^すが^すわ^すを^すは^すじ^すめ^すみ^すん^すな^すで^すよ^すり^すよ^すい^すセ^すン^すタ^すー^すを^すつ^すく^すり^すあ^すげ^すて^すい^すき^すま^すす。

初^{はつ}海^{はつ}外^{はつ}から^{はつ}戻^{はつ}っ^{はつ}て^{はつ}き^{はつ}た^{はつ}私^{わたし}は^{わたし}日^{にほん}本^{にほん}に^{かえ}帰^{かえ}っ^{かえ}て^{かえ}す^{かえ}ぐ^{かえ}コ^{かえ}ン^{かえ}ビ^{かえ}ニ^{かえ}で^{かえ}お^{かえ}に^{かえ}ぎ^{かえ}り^{かえ}を^{かえ}購^{こう}入^{にゅう}、夜^{はなび}は^{はなび}花^{はなび}火^{はなび}を^い見^いに^いき^いま^いし^いた^いと^いさ!^い元^{げん}気^きで^{げん}し^きょ!^{げん}(花^{はなび}火^{はなび}を^み見^みな^みが^みら^みし^み時^じ差^さぼ^さけ!^{つか}?^{つか}疲^{つか}れ!^{つか}?^{つか}で^{つか}ウ^{つか}ト^{つか}ウ^{つか}ト^{つか}し^{つか}て^{つか}し^{つか}ま^{つか}った^{つか}の^{つか}は^{つか}言^いう^いま^いで^いも^いない)完^{かん}





みなみ ひさおせんせい わたし いん
「南さんと久夫先生と私 in ジュネーブ」

そだ なつき
曾田 夏記



がつげじゆん しゆうかん
9月下旬の1週間、わたしはスイス・ジュネーブに行きまわりました。来年2020年夏は、国連から「日本は障害者権利条約が言っているとおりに、ちゃんと障害者のことやってますか?」と問われる「審査」があります。そこで今年の9月、国連は「審査の前に日本に聞いておきたいこと」を日本政府に送りました。例えば、「障害のある子

どもも地域の学校で学べるようにするためにどんなことしてますか?」とか、「災害が起きた時に、障害者も避難所を使えるようにするためにどんなことしてますか?」とかですね。

わたし じえいでいーえふ にほんしやうがい にほんこくない だんたい れんめい もう
私は、JDF（日本障害フォーラム）という日本国内13の団体（ろうあ連盟、盲ろう者協会、精神病患者集団など）が集まった団体の事務局として、ジュネーブへ行ってきました。そこで、「日本の障害者政策はここが問題です」「なので、日本政府には今回こんなことを聞いてください」などと伝えてきました。

こんかい かつどう なか
今回ジュネーブで活動する中で、心に残った出来事がありました。わたし じえいでいーえふ やく めい だんいん
私は、JDF約30名の団員のうち、みなみ ぜんなんちやう ねん
南さん（全難聴）とここ2年ほど特に仲良くしていました。ジュ





ネーブ初日、国連でのブリーフィング前夜のことです。何名かの団員で集まって夜ごはんを食べていました。私は、南さんと佐藤久夫先生（日本障害者協会）と席が近く3名で話していました。その時、南さんが難聴者として生きてきて辛かったこと、デシベル数で障害認定がされてしまうために、聴こえの程度でサービスを受けられず苦しんでいる仲間がいること、同じく難聴の娘さんへの想いなどを話してくれました。久夫先生と私はうんうんと聞いていました。

翌日、国連でのロビーイング本番。委員のひとりから、「日本では、まだ医学モデルに基づいて障害認定をしているのですか？」という質問

がありました。佐藤久夫先生が回答することになりました。久夫先生は、制度の谷間にいる難病の問題、IQで判断されてしまう知的障害者の問題に加え、手帳を取得できない難聴者の問題に最後に触れました。私はメモとり係だったのですが、久夫先生がその場で話したことは、昨夜南さんが話していたことをそのまま言ってくれているなあと感じて、パソコンを打ちながらとても感動しました。

本番が終わったあと、廊下で南さんに、「久夫先生、触れてくれていましたね」と言うと、南さんは「本当にうれしかった。涙が出るくらいうれしかったよ。」と仰っていました。私がいま国連の条約に関する活動をしていて一番大切だなと思っていることは、条約や条例などは、車いすの人だけ、聴こえない人だけ、見えない人だけ、の問題を扱うのではなく、「みんな」の問題を扱う場所だということです。JDFでも2年間毎月顔をあわせて国連に何を訴えるかを議論する中で、お互いのことをよりよく理解しようとするプロセスが生まれました。来年夏の本番に向け、またその先の運動に向けて、いろいろな人たちと協力して条約の活動を進めていきたいと思います。





ひるかわ りょうこ
蛭川 涼子

ぬのかわゆう
布川悠さん

かいほう よ
一 会報は読みますか？

よ りようしゃ わらい とうじしゃ
読みます。利用者さんちで(笑)。当事者スタッフ
がどんなことをしているか、実はよくわかって
いないから(苦笑)「こういうことやってるん
だ」と知る機会になってます。

じりつせいかつ おし
一 自立生活センターのイメージを教えてください

かた かいじょ げんば かん すてっぶ
「型にはまらない」というイメージ。介助の現場で感じるのは、STEPは
りようしゃ そんちよう ほか じぎょうしょ じぎょうしょ ほう
利用者を尊重しているということ。他の事業所が事業所のやり方でやっているとした
ら、STEPはその人に聞いてやるところ。だからゆっくりした歩みかもしれないけ
ど、それが「生活」っぽいし、それがいいなって。事業所のペースではなく、その
ひとじしん のペースでやりたいやり方を知っていける。早くしろと言ってくる人もいない
し。あたらしいようしゃ はい じぎょうしょ かが ちが
新しい利用者さんに入ったとき、事業所によってやり方が違うことがあって、そ
のとき ひと ほんとう かが きの
の時、その人は本当はどのやり方がいいの？って気なる。だから本人に聞く。それは
だいじ
大事にしていることかな。

かんが かた
一 いつからそういう考え方になってきたの？

はじめ かいじょ はい ひと ふく そで とお ひだり き こま
初めて介助に入った人が、服の袖を通すのが左からとか決まっていた細かかった。
しょくじかいじょ かって こまぎ おこ
食事介助のとき勝手におかずを細切れにしたら、ものすごく怒られて。そのときはよ
くわからなかったけど、その人の生活を見ていて、いろんな人が介助に入って、その
たびにやり方が変わるストレスってつらいだろうなど。1年くらいして気づいた。



ねん おも
一 どうして1年もがんばれたんだと思う？

わたしゆうとうせい わらい そと こ いえ
私、優等生タイプで(笑)。外ではいい子だったけど、家のなかではそうじゃなかった。
そういうことを友達には言わなかった。だけど介助に入っていく人は、本当なら他人
に見せない無防備なところを見せざるをえない。そういうのを目の当たりにした時、
自分のことを考えるようになった。「親に素直になれないのはどうして」とか。なぜ
か介助中にそんな話になってて。深い付き合いになっているというか。友達でもない
家族でもない人なのに、その人の生活を見せてもらって…自分の人生を考えるのにい
い仕事だった気がする。

じりつしえん おし
一 自立支援のイメージを教えてください

じんせい だい おも かいじょしゃ
「人生の大チャンス」って思う。介助者としてそれにかかわるってというのは
せきにんじゅうだい なまはんか いっしょ
責任重大。生半可じゃだめ。どこまで一緒にやっっていけるかすごく向き合うイメージ。

じりつしえん がわ かくご わらい ひと かくご
一 自立支援する側って覚悟がいるんだね？笑。どんな人なら覚悟するの？

インスピレーション？笑。迷いながらもやりたいことが見えたり、伝わってくる人
とか。芯の強さを感じる人とか。こっちがだめかとも思っても動かされちゃう(笑)。
でも芯が強くなくても、迷ってもいいとも思う。一緒に考えていくことができれば。

いま こ ちい おも かにい りょうりつ
一 今、まだ子どもが小さいと思うけど、家庭との両立できそう？

りょうりつ わたし しごとす こども しごと
両立かあ…。私はこの仕事好きだから、子供より仕事になりそうになることもある
けど、今、時間を作れるときはすごく密な時間を過ごしている実感がある。自分の
仕事のことでもう少し大きくなったらどんどんしようと思う。自分の背中を見せたい
かなと。べったり一緒にはいられないと思うけど、それが不幸とは思わない。短い
時間しかいられないからこそ遊びも丁寧にできる。息子なら話を理解してくれそう。
一緒に成長していける気がして。息子は見てくれていると思っています。

よ はなし わらい ぬのかわ たの なん
一 良いお話でした笑。布川さんの楽しみは何ですか？

さけ の はん つく わらい りょうりけっこうす あたま せいり じかん
お酒を飲みながらご飯を作るとき(笑)。料理結構好きみたいで。頭の整理の時間
になってて。プラス歌も歌うかも(笑)。あとは、電車で本読んでるときとか。推理
モノとか。山崎豊子とかまつもとせいちょう よ
やまさきとよこ まつもとせいちょう よ
山崎豊子とか松本清張とかも読みます。

—お酒とたばこをやめろって言われたらどうする？

え？精神的に不安定になる。何か依存するものを見つける！え？どうする？縫物するかも。昔作ってたミサンガとか作り始めるかも。あとは筋トレとか？

—それいいじゃない！そっちにしなよ。

でも今は無理。でもタバコは35歳までに止めようかな。

—言ったね！

井家上裕さん

—会報読みますか？

全部一通り読みます。制度の最新情報とかはミーティングで説明されるけど文章でわかりやすく書いてあるのをよめるのが助かります。

—自立生活センターのイメージは？

最初は、「当事者主体」が自立生活センターだと思ってやってきたけど、最近「誰もが社会を変える当事者」というイメージに変わってきた。インクルーシブな社会を考えれば考えるほど自分も当事者だなって。運動していると、自分たちの想いが伝わらなくてがっかりすることがある。深い議論をする前に拒否されることとか。例えば、ヘルパーがやっていいこととやってはいけないことの議論の中で、医療的ケアとかペットの世話とか外出先の記録を取れとか。「制度上できない」と一方的に言われたりすることとか。自分に当てはめて考えたら、とっても息苦しいと思うし、利用者さんがそんなの無くしてもらいたいと思うのも当たり前だなと感じる。

—井家上さんがほぼ立ち上げから辞めずにいる長続きの理由は？

STEPは自由度が高いなと思ったから。あと、人生に深くかかわるからかな。



いけがみ じりつしえん おも ひと ひと
一井家上さんが自立支援したいなって思わせる人ってどんな人？

おやもと す たい いま いか
親元ですとずっと過すことに対して今までやりたいことができなかつたとか、怒りを
も ひと けいけん つよ き も
持っている人かなあ。それだけでいい。経験あるなしじゃなく。強い気持ちだけ持っ
ていてもらえれば、何とかしたいと思う。

いま いちばん たの なん
一今の一番の楽しみは何ですか？

フットサルっす！！これは、自立とからむかもしれない。ちゅうがくいこう うんどう
のをやっていたなくて、27年振りに始めたら、身体が動かなかった。チームメンバー
からの「全く動けない奴が入ってくるなよ」という空気も感じて（笑）。悔しいから、
よ よ はし だ べんきょう むすこ せい
夜な夜な走り出したり、ルールを勉強したり。ちょうどそのころ息子がサッカーを始
めてね。息子も周りは幼稚園とかから始めた子ばかりで、周りから置いていかれてい
る感じだった。そんなむすこに「今は馬鹿にされていても1年後にうまくなっていた
ら気持ちいいぞ。悔しいか？お父さんも悔しい！オレの背中を見ろ！」という感じで
ふたり たんれん つづ あいだしあい てんい わらい へ た
二人で鍛錬を続けてたら、この間試合で3点入れた！（笑）まだ下手だけど。

いけがみし
一井家上氏にとってフットサルとは？

じりつせいかつ
自立生活です！！

一いみわからん。

まわ くや おも つづ
周りにばかにされても、悔しくても、こうしたい、こうなりたいと思いつづけること
の大事さを教えてくれた。そこで投げ出したら終わりだし、一人だったら負けていた
かもしれないけど、むすこ なかま いっしょ あきら つづ
息子、つまり仲間と一緒にだったから諦めずに続けられた。フット
サルの経験でわかりました。これから自立生活したいと思っている人に言いたい！悔
しいなおも うことがあったら、おな おも も なかま こうどう ちからで
しいな思うことがあったら、同じ思いを持っている仲間と行動するとすげえ力出ます
よ！

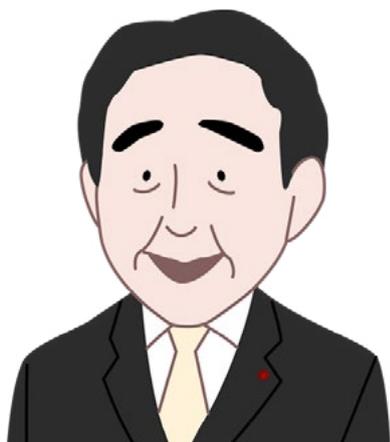
インタビューを終えて

べつべつ ふか こども じぶん せなか み
別々にインタビューをしたのに、「深いつながり」とか「子供に自分の背中を見せ
る」とかふたり おな い わたし いろいろあんしん わらい ぜんいんお
二人とも同じコトを言っていました。私は色々安心しました（笑）。全員終
わるまでにすうねん くしょう つづ じどう おおたき つた
数年かかりそうだけど（苦笑）続けます。次号は大瀧さんと津田さんです。
（聞き手：蛭川）

ぼくって、日本人て、
いったい何なんだろう。



せきぐち さとし
関口 悟



あべせいけん ふしょうじ と たいふう 19号の
初期対応が遅れたり、閣僚の民間企業との癒着やデリカ
シーに欠ける不用意な言動が絶えない。それでも国民
の安倍政権の支持率は高いままだ。ありていに言えば、
国民はここまでされても安倍政権を消極的に支持してい
るのだ。そして、かつての民主党政権時代に就職で不遇
な青年期を迎えた就職氷河期時代の野党への恨みは強
い。これも自民党、ひいては安倍政権支持のモチベーショ

ンになっている。

ぼくから見れば失敗としか見えないアベノミクスも、恩恵を受けていると思っ
ている人間が多いのだ。少なくともこのまま「なあなあ」でうまくやれるなら、敢えて
政権を変える必要はないと思っている国民は多い。要は日本人は変わりたくないの
だ。社会や政治に大きな変化が起きて自分の生命線を脅かされるぐらいなら、今のま
まのほうがずっといいという選択をしたのだ。

…と、ここまで書いてきたのは、ぼくは日本人はなぜ変わらないのかを問いたかつ
た。

世界はどんどん変わっていく。けれども、多くの日本人はそれに背を向けるよう
に伝統的な日本社会の価値観を守り続けようとしている。例えば
「家」もしくは「家族」の在り方とか。性差（ジェンダー）につ
いての考え方もそうだし、それは障害者や日本に住む外国人な
どのマイノリティへの接し方にも言えるだろう。

そして、初めに書いたようにその価値観の維持が政治的に
利用されることも多々ある。

なぜ日本人はそこまでして自分たちだけの社会にしか
通用しない保守的な価値観を守ることには必死になるのだろ
う。残念ながら、今のぼくにはそれをスパッと言い当て





言葉がない。ネットでそれについてスパッと
 言い切った文章を見つけると、スパッと
 言い切れない自分の未熟さを実感する。

思想、ジェンダー、民族、それぞれに異なる
 身体的特徴といった多様性を認めることは、
 ずいぶん前から言われてきたし、ぼく自身も
 意識してきたつもりだった。けれども世の中
 にぼくがどうしても認められないことがある

とわかったとき、多様性の尊重という言葉が嘘っぽく聞こえるようになってしまっ
 た。

「あなたの考えには同意しないが、あなたがそれを言う自由は命を懸けても守る」

これが本当の多様性の尊重だと思おうし、まだまだこの境地にぼくは達していない。
 その意味で、ぼくもまた多くの日本人と同じなのかもしれない。

障害支援も 介護保険も これ1台

訪問介護のためのスケジュール管理ソフト



クラウドでシフト管理

ヘルパーアシストはASP型だから設置が手軽。
 すぐに、どこからでも・何人でも利用が可能です。
 急な変更も、毎日の調整も、ラクラク調整！



シフト情報を自動的にメール

毎日のシフトは勿論、変更やキャンセルもメール
 でお知らせ。うっかり聞き間違い・言い忘れ！
 そんな連絡ミスをなくすお手伝いをします。



お給料もワンクリックで計算

面倒な毎月の時給計算も、シフト実績から自動
 集計・自動計算が可能です。サービスごとの時
 給設定・介護保険の単発給与にも対応！

シンプルな料金形態
 ヘルパー1名につき

800円(税別)

※更新料・解約料
 一切なし

パソコン初心者さんも安心！ サポート無料！！

HelperAssist ヘルパーアシスト

【ヘルパーアシスト】シリーズ スケジュール管理ソフト

有限会社ミッツコミュニケーションズ 東京都江戸川区瑞江 2-6-11 プレステージ瑞江 3F

TEL : 03-5636-6027 FAX : 03-5636-6024

お試しは
 コチラ！



全ての機能が
 2ヶ月間無料！

STEPえどがわ ピア・カウンセリング集中講座2019

ひるかわ りょうこ
蛭川 涼子 (りょう)

今年の集中講座は初めての通い形式。8月28日から6週間に渡り、6名の受講生を迎えて開催しました。雨が多かったなという記憶と初めてのリーダーで緊張しまくる私を、サポートしてくれたベテランリーダーのふじ（藤田博文さん from 自立生活センター日野）、STEPのピアカンチームのメンバー、すず、なっちゃん、そねっち、本当にありがとう。そして通ってきてくれた受講生のみんなに感謝です。受講生からありがたい感想文が届いたので一部を紹介したいと思います。来年度の講座はお休みしますが、ビギナーズは複数回開催しますので関心のある方はぜひ。集中講座受講生にはセッション会のお知らせも送りますので、これからもどうぞよろしくお願ひします m(_ _)m

<ピア・カウンセリング集中講座を終えて>

■古山彩花さん

私は、講座に参加したのが今回で2度目でした。以前に別の地域で行われた講座に参加した時には、とても緊張していてその場所に行く事だけで精いっぱいというような感覚でした。今回の講座は比較的リラックスして入ることができたと思います。

今回印象的だったのは、セッションとは別に、ロールプレイやサポートグループについてなど自分自身の今後に生きる実践的な内容も含まれていたことです。ロールプレイでは私自身の事を考える時間をいただくことができて緊張しましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。

セッションにも少しずつ慣れて、自分を出していけるようになりました。講座2日目の2度目のセッションで涙が溢れきた時には、自分でも本当に驚いてしまいました。同時に、心がキレイになる感覚を感じられたことが新鮮でした。

私自身、ピアカンはまだまだ初心者だと思います。これからもっとピアカンの深いところを理解して、もっともっと自分を出せるようになりたいです。

かんけいしゃ
関係者のみなさん、ありがとうございました。

もりさほり
■森沙穂里さん

かい こうざ う ありがと
6回の講座を受けさせてもらい、有難うございます。

しゅうちゅうこうざ とちゅう ぐあいあつか さいご じゅこうでき
集中講座ということで、途中、具合悪化してしまいがちでしたが最後まで受講出来
よ
て良かったです。ピアカンには私にとっては、かいふく けんきょ しせい ものごと みつづ
回復しても謙虚な姿勢で物事を見続ける
きも げんてん さまざま おも かんが ちいき なかま きず ころづよ
気持ちの原点です。様々な想いや考えを地域の仲間と築いていくと心強いですね。

はな ころづよ
離れていても孤立した気持ちがなくなっていくような気がします。まだまだ、かだい
が沢山ある、福祉サービス。せいしん かた ちいき あ おも
精神の方とも地域でピアカンし合いたい。と思いました。

こころ じりつせいかつ ゆた か こ けいけん じゃま すこ
まだまだ、心の自立生活を豊かにしていくには、過去の経験が邪魔をしますが、少
しずつ、ピアカンの気持ちを忘れずにトレーニングをしていこうと思います。

あいて はなし き き しょたいめん きんちよう うま はな
お相手の話を聴いて、気づくことなどあったり、初対面で緊張して、上手く話せない
わたし はなし みみ かたむ ありがと
い私の話に耳を傾けてくださり、有難うございます。



連載シリーズ vol.7
 鈴音の手話コラヒ

コーダ、ソーダについて

たなか すずね
 田中 鈴音

みなさん、コーダやソーダという言葉を知っていますか？

CODA（コーダ）は Children of deaf adults の略で、「聞こえない＝聴覚障害のある親をもつ聞こえる子供」のことを指します。SODA（ソーダ）は Sibling of deaf の略で「聞こえない＝聴覚障害のある兄弟姉妹をもつ“聞こえるきょうだい”」のことです。私には5歳下で現在高校3年生の聞こえる妹がいます。仲は良い方ですが「アンタの口話は小さすぎて何を言っているのか分からん！」と姉妹喧嘩になることもあり、同じ部屋にいるのにラインでやり取りすることも多々あります。そういったことがきっかけで聴覚障害の兄弟姉妹を持つ聞こえるきょうだいについてしばしば考えるようになりました。私に子供が出来ればその子はコーダなんだ～という認識程度でしたがコーダの会の存在は知っていました。兄弟関係についてもなにかいい情報ないかなーとネットで検索をかけたところ、ソーダの会を見つけました。ソーダの会の代表の藤木和子さんは弟さんが聴覚障害で当事者ということもあり、これはぜひお会いして話を聞きたい！！と思いました。同時に、韓国の映画で聞こえない両親の日常を、聞こえる娘の目線からとらえたドキュメンタリーがあることを思い出し、これはぜひSTEP含めみんなで学んでいきたいと思い、自主上映会兼トークショーをやることに決めました。

ソーダの会代表の藤木さんとつながることが出来、藤木さんの紹介でコーダの会代表の中津さんとも繋がること出来ました。当日はお2人をお招きして自主上映会の後、トークショーを行う予定です。2人の生い立ちはもちろん、ソーダの会、コーダの会としてどのような活動をされているのか、ソーダやコーダの葛藤や本音もぶっちゃけてもらう予定です。次号、誰かに感想を書いてもらおうかな。お楽しみに！

STEPえどがわ主催
 映画上映会&トークショー！！

特別賞受賞
 お父さん
 ありがとう
 きらめく
 拍手の音

聞こえる「わたし」が見つめる、聞こえない両親の世界。表情ゆたかな手話が交差する。静かだけれどにぎやかな家族のものがたり。
 韓国の若き女性監督がやわらかな視線でつむぎだす。両親へのプレゼントのようなドキュメンタリー。

1月31日(金)
 開場 17:30 開演 18:00
 タワーホール船堀
 4階研修室
 定員80名
 入場無料

アクセス：都営新宿線「船堀駅」から徒歩1分

主催：NPO法人自立生活センターSTEPえどがわ
 メール：main@step-odogawa.com
 Fax：03-3676-7425 電話：03-3676-7422
 担当：田中鈴音・布川悠
 担当が聴覚障害者のためご連絡はなるべくメールかFaxでお願いします。

詳細&申し込みは裏面へ

いのち まも こう どう を守る行動を・・・

いちかわ ひろみ
市川 裕美

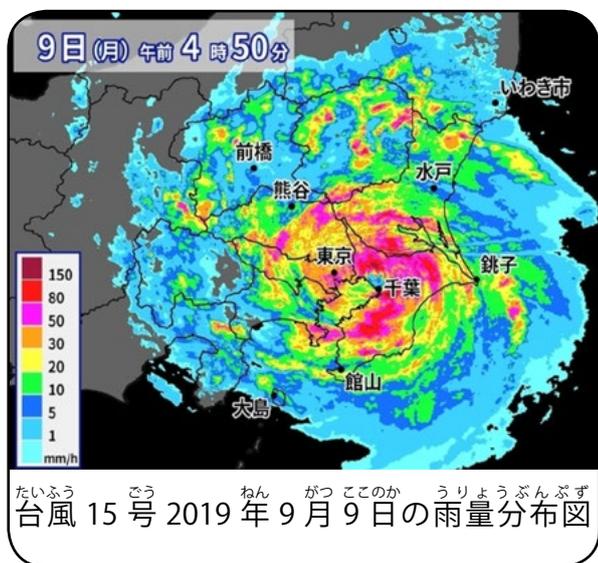
昨年さくねんは大きな台風おお たいふうが2度も上陸ど じょうりくし、お隣のとなり千葉県ちばけんでは大きな被害おお ひがいも出て今も復旧いま ふつきゅうできていないところもあるとの事こと、被害ひがいに遭あわれました方かたにお見舞みまい申し上げます。

皆様みなさまはいかがでしたでしょうか？もう過ぎ去すった事こととして記憶きおくが薄うすれてしまっているのでしょうか？STEPでは随分昔ずいぶんむかしから準備じゅんびしていた「緊急事態宣言きんきゅうじたいせんげん」と「個別支援計画こべつしえんけいかく」の作成さくせいに本腰ほんごしを入れるきっかけいとなると同時に、本当に身近ほんとう みぢかに起こり得おこる問題もんだいとして真剣しんけんに「広域避難こういきひなん」の検討けんとうを進める事すすとなりました。



昨年直撃した台風15号・19号を振り返ってみると・・・

15号は9月8日の日曜日の夜から翌月曜日の朝にかけて関東地方を直撃しました。勢力せいりよくが強い（960hpa）ものの規模へクトパスカルが小さかったために、8日の朝は快晴ようかでこれから台風たいふうが来るとは思えないような天気あさでした。でも、その時点かんとうちほうで「日付ちよくげきが変わる頃、接近せつきんとともに世界せかいが変わるほどの・・・」と、1時間雨量じかんうりょう 60 mm/h、風速みりめーとるばーあわー 40 m / 秒ふうそくという数字めーとるばーびょうが予測すうじされていました。



この数字すうじを見て危機感ききかんを感じた私は、上陸じょうりく時に介助者かいじょしゃが訪問ほうもんできない、終了しゅうりょう時に帰れないという事ことが起こらないよう、利用者りようしゃさん個々に介助時間かいじょじかんの変更へんこうなど電話でんわで確認かくにんを取りました。また、停電ていでんや万が一まんいちの避難ひなんなどを考えて二人体制ふたりたいせいを組くんだ所ところもあります。幸いにも最接近さいせつきんの時間じかんが予定よていより少し遅く、真夜中まよなか3時頃じごころでしたので、介助者かいじょしゃの足あしに影響えいきょうが出る事ことはほとんどなく過ぎていきました。

ただ、この台風たいふうを通して感じた事こと

は、前に述べた「緊急事態宣言」の告知と「個別支援計画」の作成を急がなければ・・・と。その為には災害についての研修会などを開いてもっとみんなの意識を高めなければ・・・という事。そこで早速9月のヘルパー研修会で「災害」を取り上げ、「緊急事態宣言」についての話もしました。また、利用者さんに向けても研修動画を作成し、「緊急事態宣言」「個別支援計画」を添付してメールでお送りさせていただきました。



そんな「防災」1色の1ヶ月を過ぎていた矢先・・・10月になって早々に新たな台風19号が発生(10月6日)今度は15号にも勝る大型台風が12日頃にまたしても関東地方に直撃の予報。8日(火)頃には915hpaに急激に成長し、上陸時は大潮と重なるというとても危険な要素満載の予報にちょっと焦りはじめ、翌9日(水)気象庁の緊急記者会見が・・・。「命を守る行動を・・・」のセリフ! もう何度か耳にしたこの言葉、この言葉が出た時には必ず大きな災害が起きている。更には「・・・東京湾近郊の低い土地では、自治体の発表を待たずに避難も検討したほうがいいかもしれない」とまで。「それって私たちの事だよな??」

そこで利用者さん向けに、早速「緊急事態宣言」発令の可能性があるという事と注意喚起のメールを送り、翌日には緊急会議を開いて集団での広域避難を検討。江戸川区は荒川が氾濫すると2週間以上に及ぶ浸水となり、高層階であっても長期間



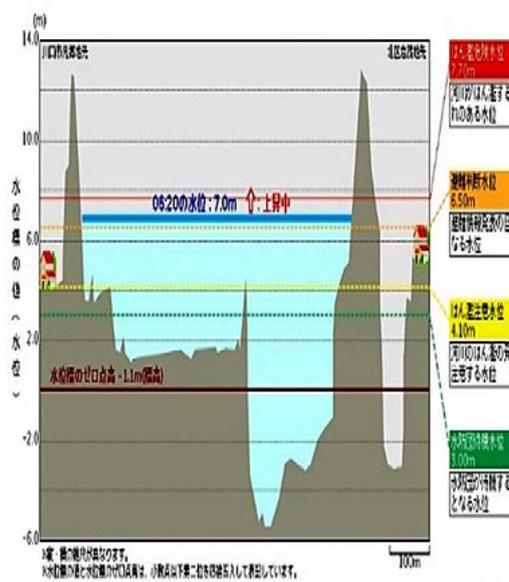
の自宅避難は難しいと言われていた。そのため江戸川・江東・すみだ かつしか あだち こうとう く墨田・葛飾・足立の江東5区でこういきびなんけんとう かいぎ ひら広域避難検討の会議が開かれ、その危険があると判断された場合は5区以外の所への避難を呼びかけます。今回はこの会議は招集されなかったという事はそこまでの

水害ではないとみていると判断。ただ、気象庁の言葉を信じるならば何らかの水害が起る可能性は高いという事になる。2週間以上の水害ならば全員で広域避難となるが、数日程度の水没なら自宅さえ浸水しなければ、とりあえずは自宅でも大丈夫かと。そこで1階に住む独居の方を中心に避難の意向確認をとる。併せて広域避難場所になり得る所に電話をかけて空き状況を確認するが、3連休の初日、宿泊施設等の殆どは予約で埋まっていた。避難先でも介助が必要な人はある程度集団で避難してしまった方が良いだろうという理由でなるべく集団避難できる場所を・・・と思ったがそれはなかなか難しかった。

結局のところ避難希望は3名。女性2名はマンション5階に住む広域避難で家を空けるといふ人の所に、男性1名はSTEPの体験室に避難する事となった。更には台風の被害も大きなものになりそうで、交通機関の計画運休も出ている。介助者が徒歩で行けるところに住んでいたとしても直撃時には強風のため外に出られなくなる可能性もあるという事で「緊急事態宣言」を発令し、その間の介助は原則中止（必要な人にはその時間に介助者の出入りをしなくて済むような長時間介助に変更）するという体制を作った。

台風上陸 12 時間前の 12 日朝 9 時には埼玉周辺の降水量がかなり多くなっていた。これは荒川上流、そしてその雨量予測が 500mm を超えると、今から広域避難を発令しても交通機関の運休が間近に迫っていて混乱が生じてしまう為、新中川より西側に（区内の）避難勧告が発令された。いきなりの避難勧告に驚いた人も多い事でしょう。今から避難・・・と言われても、雨は激しく降り移動の足も介助の手もない人も、幸い避難所に行った人の話によると、学校の保健室のベッドを必要時使わせてくださる所もあったそうですが、殆どが床にブルーシートでとても車椅子から降りて休めるような場所ではなくずっと車椅子のままだったという方が多いようです。

21 時頃台風が最接近。雨とともに暴風。最大瞬間風速が臨海町で 43.8 m / 秒全国第 2 位。日付が変わる頃には台風は過ぎ空には満月



もみえる程に。安心して避難所から家に戻った人もいたそうですが、そもそもの避難した理由の荒川はどんどん水位が増している状況でした。江戸川区で荒川氾濫の指標とする岩淵水門で、6時20分の情報では水位7メートル（上昇中）氾濫危険水位まであと70センチの所まで迫っていました。ただ、満潮の時間を過ぎ、上流の水位が下がってきていたので8時には避難勧告が解除されました。皆さんこの事実を知っていましたか?? 後の情報で24時間雨量が埼玉県三峰で561.5mmと出ていました。三峰とは埼玉の南西部、秩父ですが、まさに荒川の上流です。あと40mm増えていたら、ハザードマップのごとく荒川が氾濫して2週間以上の浸水が起きていたのかもしれない。

気候の温暖化が進み年々水害の規模が大きくなっています。今年は大丈夫でも来年は分かりません。STEPでは災害対応マニュアルにも記載した通り、「自主広域避難情報」が発令されたら全ての通常介助を中止して広域避難（及び避難準備の介助）に切り替えさせていただくことにしました。そのためSTEPでは集団避難場所の確保を検討するほか、実際に広域避難を体験してみようという企画を進めています。

まず手始めに担当者等総勢12名で12月7～8日に清里のバリアフリーペンションへの避難訓練を実施しました。最初は訓練とか言って「みんなでお泊り旅行!」くらいの楽しい気分でした。ところが、実際に日が近づいてきて、19号の時に照らし合わせ、この日に避難開始するには・・・と逆算して台風発生が5日前、気象庁の記者会見がその2日後・・・そして避難（訓練に参加）する方へ事前告知（広域避難の可能性がある→避難の意思確認→避難先の確定→避難方法の確認）などなど、避難開始までにやらなければならない事が山のようにあって、いかに効率的に動くかなど考える事がたくさんある事に気づきました。今回は随分前から広域避難

の話をしている防災担当メンバーで、避難先も決まっている状況での訓練だったにも関わらずこれだけ気付きがあったので、今度はもう少し対象者を拡大しての訓練を行なって更に広域避難の形を作っていこうと考えています。





つちや みねかず
土屋 峰和

まいとしかくち かいさい しょうがいとうじしゃ ようせいけんしゅう だい
毎年各地で開催されている「バリアフリー-障害当事者リーダー養成研修」。第13期
となる今年度は11月18日、19日、20日の3日間、大分県別府市での開催となりました。

これはバリアフリーに精通した障害当事者を育成するために開催されているもので
す。ここ数年障害者に関わる法律がいくつも改正され、また、今年はオリンピック・
パラリンピック東京大会（オリパラ）も開催されることから、バリアフリー化が大き
く進んでいます。しかしポイントは、何をどうしていけば「良い」バリアフリーになる
のかというところではないかと思えます。バリアフリーと言っても、制度や運用な
どのソフト的な部分と、建築等のハード的な部分があります。そのどちらかが良くて
もうまくは行きません。それらをバランスよく進めて行くことが、良いバリアフリー
を広げていくことに繋がるのではないかと思えます。

これまでもソフト面やハード面共に一定程度のバリアフリー化は進んできてはい



ます。しかしそれらは、実際に使う
当事者側から見ると、必ずしも使い
やすいものばかりではないことに気
づきます。お金と時間をかけたであ
る設備。なんでこうしちゃったの
かね！？と感じるものにちよいちよ
い出会います。でもそれはなぜそう
なってしまったのでしょうか。使う側
から見て、使いにくいものをあて
て新しく作る。お金と時間をかけて。
これはある意味単純なことではな
いかと思えます。使う側の意見が、
そこに無いからなのです。



新しく作るまたは改修改良更新して
いく時、せっかくお金と時間をかけて

つくるのに、変なものができてしまっは
 もったいなすぎる。しかも、一度できて
 しまうと基本的な部分の修正はとても難
 しいため、その後何年も何十年もそれを
 使い続けることになります。

また、ソフト面である接遇に関して
 も、これまでは当事者の意見等は取り入
 れていないことが多くありました。接遇
 で僕らが一番身近に感じるところでは、
 電車、バス、タクシーの交通機関でしょ
 うか。交通事業者の多くは、自社研修と
 して専門家等と呼んでの座学が多いと聞
 きます。しかし、駅員さんや乗務員さん
 は直接僕らと接します。その時の接し方
 や車椅子の扱い方、サポートの仕方等は、
 やはり実際にやってみないとわからない
 のではないかと思うのです。

これらを改善していくためには、やは
 り当事者の意見を取り入れていくことが
 重要なのです。それは計画段階から参画
 し、当事者の意見を取り入れながら進め
 作って行くことだと思えます。できた後
 に意見を聞くのではなく、計画からとい
 うのがポイントです。研修に関しても、
 できることならば研修内容を考える段
 階から当事者を入れ議論をし、実際の
 研修にも当事者を入れた実習等をする
 ことが、改善につながると考えます。

とすると、そこに入り意見をしっかりと
 伝えられる当事者がいなければなりません。
 企画や計画段階そして研修等と、それら
 にその都度参加し、当事者としての意見
 を伝えていくことが必要となります。そ
 のためには、僕ら当事者側も色々とし
 らなければ上手に伝えられません。定期
 的に改正される法律や制度そして現状
 等を知り、今後どうしていくかをイメ
 ージできることが重要となります。いま
 街中にある全てのモノは法律や制度の
 上にできています。良いモノ悪いモノ
 様々ですが、今後どうしたら良いか
 を考えるとき、これらはいいヒントに
 なるのではと思うのです。

前置きが長くなってしまいました。今回の別府での研修は毎年別府で行われている





くるまいす べっぶ とく ぜんこくてき ちゅうもく
 車椅子マラソンや、別府での取り組みが全国的にも注目されているインクルーシブ
 ぼうさい なごや くうこう とく はたら など かくちいき かつどう かいせい
 防災、名古屋での空港への取り組みや働きかけ等、各地域での活動とともに、改正バ
 リアフリー法にも謳われているマスタープランについても学びました。また、実際に
 まち ほう うた ほんだいてん あら だ けい い かいぜんてんとう みな はな
 街へ出でのバリアフリーチェックで問題点を洗い出し、その経緯や改善点等を皆で話
 し合いました。皆で話すことで自分だけの視点にとらわれず、たくさんの見方がある
 ことに気づきます。

いけん つた えいけん おも どうじ おお いけん
 意見を伝えるとき、自分だけの意見や想いと同時に多くの意見をまとめること。そ
 してどうしたらいいのかも合わせて伝えられることが、重要と思います。このよう
 なことを知るため気づくため、そしてイメージできるようになるためにこの研修を実施
 しています。

おとし ほう かいせい なか とうじしゃんかく めいき
 一昨年バリアフリー法も改正され、その中でも当事者参画が明記されています。オ
 リパラもいよいよ今年となりました。今後、障害当事者の出番はより多くなっていく
 と思います。また多くしていかなければいけないとも思います。大きなきっかけとな
 ったバリアフリー化の波をオリパラで終わらせないように、働きかけていければと思
 います。

らいねんど
 来年度(2020
 ねんど)も当研修
 年度)も当研修
 じっしよてい
 は実施予定です。
 けんしゅうないよう つどか
 研修内容は都度変
 わっていますの
 で、未参加の方
 はもちろん、以前
 に参加されたこと
 のある方もぜひご
 さんか
 参加ください。





なかそね ともあき
 中曾根 知明

「パプリ〜カ 花が咲い〜た〜ら〜・・・」とステージの上でSTEPキッズ達が踊りながら歌っているのを見てると、今年もこの時期が来たな〜っとしみじみと1年が過ぎる早さを感じさせられますが、年末恒例のクリスマス会が12月15日に東部区民館にて開催されました。今回も約90名と多くの方に参加して頂き、会場が「満員御礼状態!？」で楽しいひと時を過ごしました。

たまたまアメリカのニューヨーク自立生活協会から来られていたスザンヌさんも参加しました。日本の文化に触れてみたいとのことなので、着物に挑戦しみんなと記念撮影するなど楽しんでいました。また、手作りのケーキを食べてクリームの美味しさとフルーツの新鮮さに感動していました（アメリカのケーキは甘すぎ、フルーツは鮮度が〜とのことです）。

また今回も初参加の方が多くいて、そのなかのご兄弟で参加された方がギターの弾き語りを披露してくれて大変盛り上がりました。そして最後に豪華賞品が当たる!!ビンゴ大会と、3時間ではありますが皆さん食べたりおしゃべりしたりと楽しんでいました。次回のイベントでも多くの方が参加して頂きたいのでご興味がある方はご参加下さい!



おとな 大人には しゃかいがけんがく 社会科見学 せいびこうじょう 整備工場 なつての JAL (日本航空) 整備工場

なかそね ともあき
中曽根 知明

みなさんは工場見学といえは何を想像しますか？お菓子工場？ビール工場？何かおいしいものが食べられるのかなあ～？な～んて想像する方もいるかと思いますが、航空会社の工場見学に行ってきました。主に航空会社の工場見学というとJALとANAが代表的でどちらも非常に人気が高く両社ともに半年前から予約ができますが、すぐにいっぱいになってしまいます。今回は土屋さんよりキャンセルが出たところにタイミングよく予約が取れたとのことでJALの工場見学に行ってきました。場所は羽田空港のエリア内、東京モノレールの新整備場駅という聞きなれないところで、主に航空関係者の方が使う駅の様です。残念ながらこの駅を車椅子使用者が利用するにはエレベーターがないため階段をチェアメイトで上り下りをする必要があり、しかも利用するのに人員の手配が必要なために3日前までに連絡して下さい・・・。1日の平均乗降人員は3000人以上いるのに何で3日前に連絡しなさいいけないのかと不満を抱きながらも、楽しみにしていた工場見学だったので渋々連絡をして利用予約をしました。しかし！！前日の夕方から駅に連絡がきて「明日大雨のため階段に雨が吹き込みチェアメイトが滑って危険なので利用出来ません」と連絡があり、食い下がっても危険なので利用出来ませんの一点張り・・・。泣く泣く羽田空港国際線ターミナルまで行きそこからジャパントクシーに乗って工場に何とか到着しました。おまけにジャパントクシーに乗車拒否されるし、またこの日は10月25日で大雨により千葉や福島で死者が出るなど甚大な被害が出るほどの大雨で、雨男コンビ（土屋・中曽根）であることを実感させられました。

着くまでに前途多難ではありましたがようやく工場へ。入館証のピンクのネックストラップ（記念品としてもらいました）をもらってエレベーターで3階の航空教室に案内されました。航空教室では空港の滑走路のことや、飛行機の種類、飛ぶ仕組みでは浮力の話でなぜあんなに重たい物が飛ぶのか映像を交えてわかりやすく説明してくれました。飛行機の製造工程の話では、いかに多くの人が携り、また安全に飛ぶために様々なテストを行って作られているのかなど詳しく説明してくれました。

次に展示エリアへ。展示エリアでは整備士の仕事の紹介やパイロットのコーナー



では実寸大の Cockpit に座ることができ計器類も実際と同じものがついていて体験出来ます。また歴代の CA やパイロットの制服が並んでいるところでは、制服体験ができ車椅子でも簡単に着られる仕組みになっており、実際に着て記念撮影もしてきました。

その他にはファーストクラスやビジネスクラスのシートが置いてあり座り比べも体験できます。展示エリアの見学が30分ほどなのでもう少し時間が欲しかった。なおこの時でないとお土産が買えないとのことでした。

次に最後のエリアの格納庫へ。ここからはヘルメットを被って行きますが、車椅子利用者はエレベーターを使う為ほかの見学者とは別ルートで行き、専属職員がハンドマイクを使って庫内の飛行機や整備の仕方を説明してくれます。格納庫は2つありそれぞれ点検整備と修理とで分かれていて、点検整備では車の車検のように約1ヵ月から2ヵ月ごと、約1年半後と、6年から8年ごとと車の車検のように整備することが決まっています。6年から8年の点検では1ヵ月かけて行いシートや内装などすべて外してすみずみまで徹底的に行うとっていました。そのおかげで事故がなく安全に飛行できているんだと実感させられました。



この日は格納庫には運が良く最新機種ボーイング787が整備中で、主翼を斜め後ろから見ると綺麗な形状が見られると案内してくれました。

この機種の主翼は鳥の羽の形状を真似て作られたと、燃費の向上が計られたり、エンジンカバーがヤマギリになっているのは騒音を低減する為になっていたり最新技術の固まりとのことでした。見学を終盤には天候もだいぶ落ち着き格納庫を出るぎりぎりのところで着陸の場面を目の前で見せてくれました。そんなこんなであっという間に1時間半が経過し工場見学を終えることに。もう少し時間が長ければ



～と思いましたが職員の皆さんも優しく丁寧でした。非常に人気がある飛行場見学ですが、予約ページをマメにチェックしているとキャンセルで空きが出るらしいので、チャンスがあれば行ってみるのもいいですよ。

かいじん ぼりゅう 会員募集

すてっぶ STEPえどがわは、すてっぶ STEPポリシーとすてっぶくんもとしょうがいしゃの自立生活に係わる様々な問題に取り組み、ひいてはちいきねに根ざした社会貢献団体になることを目指しています。

つきましては、とうほうじんかつどうしゆしさんどうみなさまかいじんせいさんじよ賛助)になっていただき、ともじりつせいかつすてっぶえどがわをささそだそだくたなかまぼしゆう育てて下さる仲間を募集します。

せいかいじん せいかいじん とうほうじん ていかん さだ そうかい さんか
正会員 (正会員は、当法人の定款に定めた総会に参加できます)

- とうろくりよう 5,000 えん にゆうかいじ
・登録料 5,000 円 (入会時のみ)
- かいひ 5,000 えん ねん
・会費 5,000 円/年

かいじん さんじよかいじん
サポーター会員 (賛助会員)

- こじん 1 ぐち えん ねん くちいじょう
・個人 1 口 3,000 円/年 (1 口以上)
- だんたい ほうじん 1 ぐち えん ねん くちいじょう
・団体・法人 1 口 10,000 円/年 (1 口以上)

かいじん とうほうじん かんこうぶつ あんない どう そうふいた
会員には、当法人の刊行物、イベント案内チラシ等を送付致します。

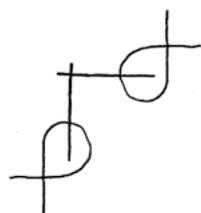
かいひのうにゆうさき
会費納入先

ゆうびんふりかえ じりつせいかつ
<郵便振替> 自立生活センターステップえどがわ No.00110-0-579238

ぎんこうこうざ とくていひえいりかつどうほうじんじりつせいかつ
<銀行口座> 特定非営利活動法人自立生活センターステップえどがわ

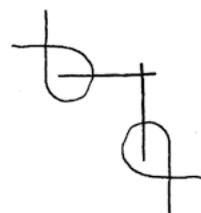
みつびしゆーえふじえーぎんこう みずえしてん ふつう
三菱UFJ銀行 瑞江支店 普通 0548550





編集後記

へんしゅうこうき



ついに、^{ねんがん}念願のミラーレス^{いちがん}一眼レフカメラを買いました!!! 今
までは^{かる}軽さ重視でiPhone^{つか}を使ってましたが、^{いちがん}一眼にしたらその
^{きれい}綺麗さに^{あつとう}圧倒されてます。レンズ^つを付けると約1.5kgと^{やく}筋ジスの
^{わたし}私には^{つら}なかなか^{さつえい}辛いですが、^{ゆうじん}撮影アシスタントの友人にあーでも
ない^いこーでもないと言いながら^{とつくんちゆう}特訓中。慣^なれてきたら^{いまむら}今村さんの
グラビアに^{ちようせん}挑戦してみようかな ^_^

へんしゅう
編集 :



〒133-0065 ^{とうきょうとえどがわくみなみしのぎまち}東京都江戸川区南篠崎町3-9-7
^{でんわ}TEL 03-3676-7422 ^{ふあつくす}FAX 03-3676-7425
^{うえぶ}WEB <http://www.step-edogawa.com/>
^{めーる}E-mail main@step-edogawa.com

